



営農NEWS



ナシ栽培での微小害虫チャノキイロアザミウマの発生と防除

近年、茨城県のナシ産地で、ニセナシサビダニによる被害と極似する症状のチャノキイロアザミウマによる被害が発生し、問題になっています。

チャノキイロアザミウマは古くからチャの害虫として知られ、果樹ではブドウやカキ、カンキツなどで重要害虫とされてきましたが、ナシでの被害は問題になっていませんでした。しかし、数年前から近県のナシ産地においても、チャノキイロアザミウマによる被害が報告されており、その発生生態の解明と防除対策について現在検討されています。

1 チャノキイロアザミウマの発生生態と防除対策

体長は 1 mm 弱（野菜や花などで知られているミカンキイロアザミウマは約 1.5 mm）とかなり小さく、成虫の体色は黄色か淡黄色、翅を閉じると背部中心に黒色の筋がみえます。幼虫は成虫より小さく、体色は同じですが翅を持っていません。

ナシ徒長枝の上位葉など、硬化する前の軟らかい葉に多く寄生して、加害します。加害初期や低密度時には、葉裏の葉脈に沿って褐変しますが、寄生が多くなると、葉裏全体が黒褐色に変色します。被害が激しくなると、葉が表側に湾曲し、早期落葉します。幼果を加害する場合があります。

ナシ園での成虫の発生は、地域や年次により変動があるものの、7 月中旬頃から増加して、7 月下旬～8 月中旬頃にかけて最盛期になります。

ニセナシサビダニの防除を行っても被害が収まらない場合や、被害が遅い時期までみられる場合は、チャノキイロアザミウマによる被害の可能性もあります。

<防除のポイント>

- 1) 先端部の軟らかい葉に多く寄生するため、徒長枝等を定期的に観察して早期発見に努めます。
- 2) 多発生してからでは防除効果が上がりにくいので、発生初期の防除を徹底します。
- 3) SSで薬剤防除を行う場合は、ドリフトに注意しながら、送風量を上げるなど、新梢先端まで薬液が付着するようにします。
- 4) 薬剤の選択に当たっては、対象害虫を確認し、収穫前日数に十分注意して実施してください。

2 参考：ニセナシサビダニの発生生態と防除対策

体長は 0.2 mm 弱（ナミハダニやカンザワハダニは約 0.5 mm）と非常に小さく、肉眼で観察することは困難です。成虫の体色はクリーム色で、うじ虫型のダニです。

チャノキイロアザミウマ同様、徒長枝の上位葉に多く寄生して被害を生じますが、ニセナシサビダニの場合は葉裏の表面が薄茶色のサビ症状に変色、激しくなると萎縮して主に葉が裏側に湾曲し、早期落葉することもあります。また、チャノキイロアザミウマでは徒長枝全体の葉が変色する傾向なのに対し、ニセナシサビダニでは徒長枝の先端部で被害の多い傾向があります。

ニセナシサビダニの発生時期は 5 月頃からで、6～7 月にかけて最盛期となります。

なお、近年はニセナシサビダニによると思われる被害として、モザイク様症状や奇形葉の発生が問題となっています。

表 1 ナシにおけるチャノキイロアザミウマの主な防除薬剤（平成 28 年 6 月 17 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	その他の対象害虫
ディアナWDG※	5,000～10,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	シンクイムシ類、ハマキムシ類、チュウゴクナシキジラミ
コルト顆粒水和剤	3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	アブラムシ類、カイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ
コテツフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	ニセナシサビダニ、ヨモギエダシヤク、ナミハダニ、カンザワハダニ、
ハチハチフロアブル※	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内	ニセナシサビダニ、クワコナカイガラムシ、シンクイムシ類、アブラムシ類
ウララDF	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内	アブラムシ類

注）※薬剤はアザミウマ類での農薬登録です。また、その他の対象害虫に対する希釈倍率が異なるものもあるので、ラベルで確認してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040